

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ガイドヘルパー講座Ⅲ Course of Study on Mobility Guide Ⅲ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(ガイドヘルパーユニット必修)	ガイドヘルパー講座Ⅲだけの履修は認められない。ガイドヘルパー講座Ⅰ、Ⅱも必ず履修すること。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
久保由佳 大熊信成 和田晴美		福祉棟2・3階	各教員から説明します	授業中に指示します
授業の概要				
視覚に係る基本的な人体の構造と機能を概観し、視覚障害の原因疾患と症状およびその心理を理解する。そして、見えにくい・見えないことによる日常生活上の障害から生活ニーズを捉える。これらの学びをもとに、同行援護従事者としての基本姿勢や留意点、基本技術を習得する。演習においては、視覚障害を日常の何気ない動作から体験し、生活障害を具体的に理解する。				
授業の目標				
①同行援護の法的位置づけと従事者としての役割を説明できるようにする。 ②視覚障害に起因する医学的知識から、生活障害および心理状態をむすびつけることができるようにする。 ③同行援護の業務内容を説明できるようにする。 ④視覚障害のある人に対し、適切な同行援護の支援を行うことができるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが、講義も併用する。演習は教室や校内だけでなく、校外においても実施する。				
学習の成果（学習成果）				
視覚障害のある人の心身の状況および日常生活上の不自由さを明確にし、適切な同行援護サービスを提供することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、演習時の諸注意（30分） 視覚障害者（児）福祉サービス：福祉制度の概要、サービスの種類・内容・役割等（60分）			（大熊）
第2回目	同行援護の制度と従事者の業務①：同行援護の制度と従事者の役割と意義（90分）			（大熊）
第3回目	同行援護の制度と従事者の業務②（30分） 障害者（児）の心理：視覚障害のある人の心理的特性と介護者の心得（60分）			（大熊）
第4回目	障害・疾病の理解①：頻度の高い障害・疾病の医学的知識、日常生活における障害（90分）			（和田）
第5回目	障害・疾病の理解②（90分）			（和田）
第6回目	情報支援と情報提供①：情報支援の重要性と情報提供の方法（90分） 【レポート1：演習の振り返り、提出は第7回目の授業時】			（久保）

第7回目	情報支援と情報提供② (30分) 代筆・代読の基礎知識①：代筆・代読の方法と留意点 (60分)	(久保)
第8回目	代筆・代読の基礎知識② (60分) 同行援護の基礎知識①：同行援護の目的と機能、基本原則 (30分)	(久保)
第9回目	同行援護の基礎知識② (90分)	(久保)
第10回目	基本技能①：点字ブロック、ガイド上の留意点、基本姿勢、狭い所やドアの通過、誘導歩行 (90分)	(久保)
第11回目	基本技能②：立ち位置交換、椅子への誘導、誘導歩行、段差・階段の昇降 (90分)	(久保)
第12回目	基本技能③：クロックポジション、食事介助 (90分)	(久保)
第13回目	応用技能①：ファミリアリゼーション、防御姿勢、買い物 (90分) <校外授業>	(久保)
第14回目	応用技能②：エスカレーター・エレベーターの乗降 (90分) <校外授業> 【レポート2：演習の振り返り、提出期限は授業で指示する】	(久保)
第15回目	応用技能③：車の乗降、トイレ誘導、通院等その他の対応 (90分)	(久保)
事前・事後学習	日頃から視覚障害者（児）に関する本や話題に興味・関心をもつこと。 授業でわからなかった点は、各自調べたり、教員に質問したりすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。
レポート	20%	第6回目、第14回目にレポートを課す。S評価のレポートは、体験したことを振り返り、学びや気づきが具体的に記述されていること。援助の視点を含め、自分の考えがまとめられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	同行援護のサービス、視覚障害に関する疾患、同行援護の基礎知識・技術に関する問題を穴埋めや選択、記述形式で出題する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
同行援護従業者養成研修テキスト 中央法規出版 その他、適宜資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験 久保（介護福祉士、通算6年）、大熊（生活指導員、通算6年）、和田（看護師、通算10年） ガイドヘルパー講座Ⅰ～Ⅲの単位を取得し、必要な手続きをすると、「修了証明書」が発行される。講義・演習ともに積極的に参加すること。演習時は動きやすい服装にし、アイマスクを用意すること。第13・14回目については、予定を変更する可能性がある。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		